

3 実践

『枕草子』でシナリオを作り、演じよう

総合的に力を育む古典学習

千葉県南房総市立富山中学校教諭 石村由里

1 はじめに

古典学習において生徒一人一人が充実感をもって学習に取り組むためには、どのような授業を行えばよいのか。従来の精読や訓詁注釈だけの授業では「主体的で対話的な深い学び」のためには限界があるといわざるをえない。

本実践は、古典の教材で総合的に力を育むことを意図した。『枕草子』を多読して章段を選び、その章段に基づいたシナリオを作り（翻作）、演じる（動作化）というものである。最終的に発表・批評し合う場を設けることで、言語活動に必然性をもたせたい。「多読」は、多くの文章に触れることで語彙を豊かにし、理解を深めると考えられる。シナリオ作りは、「翻作」といわれる書き換えの言語活動であり、思考を深め、表現力を豊かにする。「動作化」は想像力、思考の深化を促す。学習内容も言

2 指導計画（全十三時間）

■目標

語活動も豊富に含んだ、読む、書く、聞く、話す力を総合的に伸ばす単元構成である。

○教材をもとにシナリオを書き、演じる等の表現活動により、理解・思考を深める。

■使用資料

※教科書教材の他に用いたもの
・文庫本『枕草子』（原文と現代語訳の両方が掲載されたもの）一人一冊
・インターネットから『枕草子』原文（全323段、能因本参考）五冊
・『枕草子』関連本（校内の図書館と市立図書館の協力を仰いだ）六十冊程度

■展開

第一～四時

・学習の目標、流れを知る。

第六～十一時

・各自シナリオを考え、ノートに書く。
・内容を班員で検討し、助言し合っシナリオを完成させる。

第五時

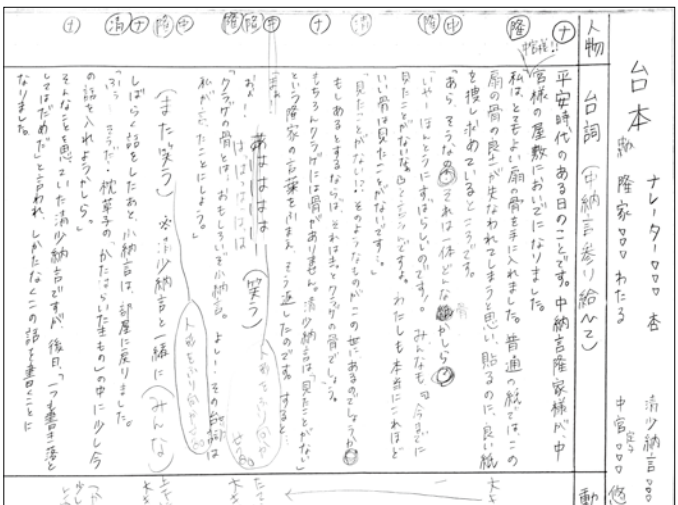
・班内で章段を選び、発表時の表現活動を話し合い、決定する。

第十二～十三時

・発表会を行う（体育館）。
・発表を鑑賞し、発表班へのメッセージを付箋に書く。全班の発表が終わったら、付箋を各班に渡す。

3 学習の実際

- ① 各班(①～⑩)が選んだ章段と表現方法
- ② 第233段「降るものは」…紙芝居
- ③ 第98段「中納言まゐりたまひて」…ペープサート・劇
- ④ 第26段「にくきもの」…劇(コント)・せりふは録音
- ⑤ 序段「春はあけぼの」…紙芝居・ペープサート



▲第98段「中納言まゐりたまひて」のシナリオの一部。

- ⑥ 第41段「虫は」…紙芝居
- ⑦ 第123段「はしたなきもの」…劇(コント)
- ⑧ 序段「春はあけぼの」…紙芝居
- ⑨ 第22段「生ひさきなく、まめやかに」…ペープサート
- ⑩ 第27段「心ときめきするもの」…紙芝居

② 学習後の生徒へのアンケート結果

○章段選択の際に使用した資料は、「原文だけ」が11%、「現代語訳だけ」が27%、「原文と現代語訳」が62%という結果であり、原文だけを読み続けた生徒がいることは興味深い。現代語訳だけに頼る生徒は想像したより少なく三割程度であり、七割の生徒は原文に目を向けている。

- 「清少納言のものの見方や考え方がわかってきたか」については100%が「はい」と答え、次の四点を理由として挙げた。
- ①話し合いをしたから（解釈のしかた、道具・動き・演技等のアイデア、言葉について）。
- ②思考したから（解釈のしかた、人や道具の動き、自分たちの今風の言葉に変える、作者の気持ちを想像する、表現活動の選択について）。
- ③何度も読み返したから（小学校での音

4 おわりに

読の経験・意味の理解も)。
④演じたから(演技した、動いた)。
○「今回の学習方法で楽しく、自主的に学習を進められたか」についても、全員が「はい」と回答した。

生徒の状況や学習後の感想から、主体的に学びに取り組んでいたことがわかる。章段選びやシナリオ作りの中で、『枕草子』に関連する多様な本を読み続ける(多読)に繰り返す教材と対話しながら多くの文や言葉に出会い、仲間と対話する中で自己の感覚とは違う新しい捉え方に出会い、語彙が豊かになっていく。作者の意図や心情を想像しながら思考し、現代の言葉に書き換える(翻作)。そして、仲間と話し合い、創作した劇や紙芝居等を演じることにより(動作化)、理解・思考がいつそう深まっていった。

今後、精読や訓詁注釈の授業も実施しながら、今回のような授業も学期に一回は実施していきたい。そのために、行き届いた教材研究や年間計画の工夫をし続けることの必要性を改めて感じている。